

### III 特殊分類別（財別） 鉱工業生産及び生産者製品在庫の動き

（表5、表6）

#### 1. 最終需要財

6年の県内最終需要財の生産指数は83.9で、対前年比△7.4%減少した。これは、資本財、建設財、耐久消費財、非耐久消費財が減少したためである。

一方、在庫指数は103.2で、対前年比△5.7%減少した。

##### 1-1 投資財

6年の県内投資財の生産指数は、84.6で対前年比△4.7%減少した。一方、在庫指数は101.7で対前年比△10.5%減少した。

##### 1-1-1 資本財

6年の県内資本財の生産指数は80.8で、対前年比△5.6%減少した。これは、化学機械、数値制御専用機等が減少したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期は80.9（対前期比3.1%増）、4～6月期は76.5（同5.5%減）、7～9月期は80.9（同5.8%増）、10～12月期は85.1（同5.2%増）と一時期減少したが、再び増加した。

一方、在庫指数の年平均は115.0で、対前年比△14.8%減少した。これを四半期別にみると、1～3月期は135.8（対前期比5.0%増）、4～6月期は140.3（同3.3%増）と2期連続増加し、7～9月期は105.6（同24.7%減）、10～12月期は83.2（同21.2%減）と2期連続減少した。

##### 1-1-2 建設財

6年の県内建設財の生産指数は90.0で、対前年比△3.5%減少した。これは、みがき板ガラス、強化製品その他等が減少したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期は106.0（対前期比21.8%増）、4～6月期は83.9（同20.9%減）、7～9月期は89.2（同6.3%増）、10～12月期は80.0（同10.3%減）と増減を繰り返した。

一方、在庫指数の年平均は87.6で、対前年比△3.8%減少した。これを四半期別にみると、1～3月期は87.0（対前期比3.5%減）、4～6月期は90.1（同3.6%増）、7～9月期は88.4（同1.8%減）、10～12月期は84.7（同4.2%減）と一時期増加したが、再び減少した。

##### 1-2 消費財

6年の県内消費財の生産指数は82.9で、対前年比△11.1%減少した。一方、在庫指数は105.9で、対前年比4.3%増加した。

##### 1-2-1 耐久消費財

6年の県内耐久消費財の生産指数は76.6で、対前年比△14.2%減少した。これは、乗用車等が減少したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期は90.9（対前期比12.5%増）、4～6月期は74.8（同17.8%減）、7～9月期は71.1（同4.9%減）、10～12月期は70.7（同0.6%減）と3期連続減少した。

一方、在庫指数の年平均は109.6で、対前年比0.9%増加した。これを四半期別にみると、1～3月期は143.0（対前期比13.8%増）、4～6月期は131.9（同7.7%減）、7～9月期は95.7（同27.5%減）、10～12月期は81.7（同14.6%減）と3期連続減少した。

##### 1-2-2 非耐久消費財

6年の県内非耐久消費財の生産指数は96.2で、対前年比△5.4%減少した。四半期別に推移をみると、1～3月期は96.6（対前期比5.2%減）、4～6月期は100.0（同3.6%増）、7～9月期は95.3（同4.7%減）、10～12月期は92.8（同2.6%減）と一時期増加したが、再び減少した。

一方、在庫指数の年平均は102.7で、対前年比7.8%増加した。これを四半期別にみると、1～3月期は98.2（対前期比10.2%増）、4～6月期は103.2（同5.1%増）、7～9月期は110.8（同7.3%増）と3期連続増加し、10～12月期は98.9（同10.7%減）と減少した。

#### 2. 生産財

6年の県内生産財の生産指数は91.8で、対前年比0.6%増加した。これは、鉱工業用生産財、その他用生産財がともに増加したためである。

一方、在庫指数は102.1で、対前年比△2.0%減少した。

##### 2-1 鉱工業用生産財

6年の県内鉱工業用生産財の生産指数は91.0で、対前年比0.4%増加した。これは、綿織物、その他低圧器具等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期は90.3（対前期比2.4%増）、4～6月期は90.2（同増減なし）、7～9月期は90.4（同0.2%増）、10～12月期は92.9（同2.7%増）と一時期横ばいであったが、再び増加した。

一方、在庫指数の年平均は102.0で、対前年比△2.4%減少した。これを四半期別にみると、1～3月期は103.0（対前期比2.3%減）、4～6月期は104.4（同1.3%増）、7～9月期は101.2（同3.0%減）、10～12月期は99.2（2.0%減）と一時期増加したが、再び減少した。

2-2 その他用生産財

6年の県内その他用生産財の生産指数は113.4で、対前年比4.5%と6年連続増加した。これは、軽油、重油等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期は105.8（対前期比1.2%減）、4～6月期は114.0（同7.8%増）、7～9月期は123.4（同8.2%増）、10～12月期は110.9（同10.1%減）と増減を繰り返した。

一方、在庫指数の年平均は104.0で、対前年比3.8%増加した。これを四半期別にみると、1～3月期は102.9（対前期比3.3%減）、4～6月期は99.8（同3.0%減）、7～9月期は109.8（同10.0%増）、10～12月期は103.6（同5.6%減）と一時期増加したが、再び減少した。

表5 特殊分類別鉱工業生産指数増減率

平成2年=100

	対前年増減率(%)				6年四半期別・対前期増減率(%)			
	3年	4年	5年	6年	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期
鉱工業	△1.2	△5.4	△2.7	△3.5	5.9	△6.0	1.2	△0.3
最終需要財	△3.2	△4.8	△1.7	△7.4	8.8	△12.0	2.0	△2.0
投資財	△5.5	△5.5	△0.6	△4.7	11.2	△12.6	5.8	△1.9
資本財	△6.0	△5.9	△3.3	△5.6	3.1	△5.5	5.8	5.2
建設財	△4.9	△4.9	3.1	△3.5	21.8	△20.9	6.3	△10.3
消費財	0.0	△3.8	△3.3	△11.1	6.4	△10.3	△5.3	△1.7
耐久消費財	0.4	△6.4	△5.3	△14.2	12.5	△17.8	△4.9	△0.6
非耐久消費財	△0.9	1.7	0.8	△5.4	△5.2	3.6	△4.7	△2.6
生産財	0.9	△6.0	△3.6	0.6	2.1	0.4	0.5	2.2
鉱工業用生産財	0.8	△6.4	△3.9	0.4	2.4	0.0	0.2	2.7
その他用生産財	2.0	4.4	2.0	4.5	△1.2	7.8	8.2	△10.1

表6 特殊分類別鉱工業生産者製品在庫指数増減率

平成2年=100

	対前年増減率(%)				6年四半期別・対前期増減率(%)			
	3年	4年	5年	6年	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期
鉱工業	6.8	0.7	△1.3	△3.4	△0.6	0.3	△5.6	△6.6
最終需要財	6.0	△0.9	4.3	△5.7	3.5	△0.7	△11.5	△13.9
投資財	2.9	△2.6	13.4	△10.5	1.3	0.5	△14.9	△13.2
資本財	△6.2	6.1	35.1	△14.8	5.0	3.3	△24.7	△21.2
建設財	12.2	△10.4	△9.4	△3.8	△3.5	3.6	△1.8	△4.2
消費財	12.1	2.0	△10.5	4.3	11.2	△3.5	△9.1	△14.3
耐久消費財	23.8	0.5	△12.6	0.9	13.8	△7.7	△27.5	△14.6
非耐久消費財	2.1	3.7	△8.4	7.8	10.2	5.1	7.3	△10.7
生産財	7.4	1.6	△4.4	△2.0	△2.4	1.1	△2.3	△2.2
鉱工業用生産財	7.9	0.7	△3.7	△2.4	△2.3	1.3	△3.0	△2.0
その他用生産財	△1.2	19.8	△15.3	3.8	△3.3	△3.0	10.0	△5.6